

令和5年度第1回羽咋市地域公共交通協議会 会議録

日時 令和5年5月31日（水） 10時00分～12時00分

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者（欠席2名）

区分	団体名等	職名	委員氏名	備考
地域住民代表	羽咋市町会長連合会	会長	伊藤 幸雄	副会長
利用者代表	羽咋市老人クラブ連合会	会長	出村 亮一	
	羽咋市民生委員児童委員協議会	理事	藤田 典知	
関係事業者	西日本旅客鉄道（株）七尾鉄道部	七尾鉄道部長	江下 喜久夫	
	北鉄能登バス（株）	取締役支配人	奥村 浩一	
	羽咋タクシー（株）	代表取締役	岡澤 克也	
	（有）邑知観光	代表取締役	上田 祥吾	
国土交通省	国土交通省北陸信越運輸局	交通企画課長	玉巻 史成	欠席
	北陸信越運輸局石川運輸支局	首席運輸企画専門官	高橋 岳大	
石川県	石川県企画振興部新幹線・交通対策監交通政策課	主幹	石黒 祐介	
所轄警察署	羽咋警察署交通課	課長	大野 弘志	
学識経験者	小松大学	教授	高山 純一	
病院関係	公立羽咋病院	総務課長	村井 光一	
羽咋市	総務部	部長	山本 裕一	会長
	産業建設部	部長	前田 剛克	
	市民福祉部	部長	片山 みゆき	
	教育委員会	次長	中島 一明	欠席
事務局	企画財政課	課長	和田 美紀	
		課長補佐	安達 崇	
		主任	三星 佑紀	

1. 開会

傍聴者・報道関係者報告

2. 会長あいさつ

(略)

3. 出席者紹介

(略)

4. 報告事項

- (1) 令和4年度るんるんバス利用者数の推移について

【地域包括ケア推進室 瀧辺】

(資料1)を説明

5. 協議事項

- (1) 令和4年度決算及び令和5年度予算(案)について

【事務局】

(資料2)を説明

【総務部長 山本会長】

質問や意見はあるか。

質問もないようなので協議事項第1号を原案どおり承認することでご異議ないか。

【一同】

異議なし。

【総務部長 山本会長】

異議なしと認め、承認することとする。

- (2) 地域公共交通に関する住民説明会報告書について
(3) 羽咋市地域公共交通再編実施計画(素案)における
前回からの変更点について

【事務局】

(資料3)、(資料4)、(資料5)、(資料6)を一括して説明

【市民福祉部長】

(資料6) P15, P17のAI デマンド交通の利用助成について、健康福祉課で実施しているタクシーの利用助成は、現在は障がい者の方であれば内部障害や精神障害者1級も対象となっているので、AI デマンド交通の利用助成についても助成の対象を同様にした方が良いのでは。

また、妊婦に対する助成について、本市では妊婦へのタクシー助成を実施しており、産後8週までが対象となっているので、AI デマンド交通の利用助成と既存のタクシー利用助成との制度のすり合わせが必要なのでは。

【事務局】

AI デマンド交通とるんるんバスの利用助成について、関係各課と協議を行い、他の助成制度と対象範囲が違うために、利用者の混乱を招くことのないよう助成制度を変えていきたい。

【(有) 邑知観光 上田代表取締役】

住民説明会の参加者数を見ても、周知が足りていないのではないかと感じる。今後どのように周知を実施していくか教えてほしい。

【事務局】

今後の周知については、AI デマンド交通については各町会長と連携を図りながら会館単位で説明会を実施していきたい。また、AI デマンド交通の運営事業者と協議を行ってからはなるが、可能であればチラシを全戸配布する等、多くの方に説明会に参加いただくために何か方法がないか考えていきたい。

【町会長連合会 伊藤会長】

路線バスの利用助成について、助成額は決まっているのか。

【事務局】

助成額は決まっていない。ただ住民説明会を実施した中で、他の地域と比べて負担が増えないようにしてほしいという意見があった。今後、住民説明会で出た意見を踏まえて、路線バスの利用助成についての要綱を作成していきたい。

【町会長連合会 伊藤会長】

西北台コースのるんるんバスが廃止になった場合、柴垣地区は路線バスを利用することになるが、路線バスだと羽咋病院に直接、行けなくなる。また、石野町のスー

パー等に行くにしてもるんるんバスや AI デマンド交通への乗換えが必要になってくる。西北台地区の中だと、滝谷町のようにタクシーの利用助成がある町もあれば、AI デマンド交通が導入される町もある中で、目的地まで乗換えが必要なことや利用料金が以前よりも高くなるかもしれないという説明だと、地域による格差を感じ、納得のいかない市民が出てくると思うがどうか。

【事務局】

柴垣地区から路線バスを使って、羽咋病院に行く場合は、一度羽咋駅に降りてから、羽咋駅から羽咋病院まで運行している、病院バスを利用するか、またはるんるんバスに乗り換える必要がある。北鉄能登バスの都合はあるが、羽咋駅までの停車を羽咋病院まで延ばせないか北鉄能登バスと協議を行っていききたい。

また、地域格差については、いただいた意見を踏まえて、利用料金等についてはしっかりと検討をしたいと思う。

【北鉄能登バス（株） 奥村取締役支配人】

数年前から運転手の人員不足が深刻になっている。地元の運転手を増やすためにも、体験会を実施するなど、市と協力しながら運転手の確保に向けて引き続き努めていきたい。

【事務局】

AI デマンド交通について、現在2台の運行を考えている。地域による格差をなくすためにも AI デマンド交通を広範囲で導入してほしいとの声もいただいているが、運転手の人員不足もあり、今回お示した2台での運行で準備を進めさせていただきたい。また、地域公共交通計画の基本理念では持続可能な公共交通を掲げており、路線バスを継続、促進させるために、路線バスと重複しているるんるんバスのコースを廃止している。地域格差を少なくするためにも、路線バスの利用を促進させるためにも、路線バスの利用助成について協議を行っていききたい。

【民生・児童委員協議会 藤田理事】

地域で困って生活している方に地域公共交通についての情報が届いていない気がする。公民館や町会単位で説明会を実施すると言っていたが。様々な組織を利用して広報を実施すれば、もっと多くの方々に利用いただけるのではないかと思う。

【事務局】

地域公共交通再編実施計画を作成後に民生委員に対する説明会を実施する等、周知に向けて努めていきたい。

【(有) 邑知観光 上田代表取締役】

AI デマンド交通の運行について、運転手の休憩時間を確保するために、1日の運行時間の中に1時間運行休止の時間を設けた方が、運行の安全面からも良いのではないかと。

【事務局】

AI デマンド交通の運転手について、1台につき1人で運行しなければならないわけではないため、途中交代をして休憩を行いながら運行を行うこともできると考えている。具体的な運行方法については運行管理事業者との協議の中で決めていきたいと思う。

【羽咋タクシー（株） 岡澤代表取締役】

地域公共交通の状況も地域の状況も日々変化していくため、示された計画を実行しながら、より良い地域公共交通に向けて修正していく必要があるのではないかとと思う。

【事務局】

事務局としても今回の再編で終わりではなく、市民の皆様のニーズに合った使いやすい地域公共交通を目指し、再編が終わったあともブラッシュアップしていきたい。

【西日本旅客鉄道（株） 江下七尾鉄道部長】

来春には新幹線の敦賀開業が控えている。新幹線の運行状況により、地方路線が変わるような予想がされている。七尾線については、現状を維持してもらえるように上に対して発信している。市民の皆様に迷惑がかからないように運行が維持できるよう努めていきたい。

【小松大学 高山教授】

路線バスの利用助成の回数券や定期券の購入について制限を設けるのか。また、交通空白地へのタクシー助成に対しての助成制限はあるのか。

【事務局】

路線バスの利用助成について、回数券や定期券の購入について制限を設けない予定である。ただ、購入した回数券や定期券については転売ができないようにしたい。タクシー助成については他のタクシー利用助成制度と同じように本人負担が発生するような形で助成を実施したいと考えている。

【小松大学 高山教授】

コミュニティバスとAI デマンド交通の収支率をどれくらい見込んでいるか。

【事務局】

コミュニティバスについては現状、3台で約3300万円の経費が1年間で掛かっている。これに対して運賃収入は令和4年度で約220万円となっており、収入が支出に足りていない状況である。コミュニティバスの運行については国から特別交付税措置がされており、市の負担は約600万円となっている。

地域公共交通を高齢者等の日常の足として利用いただくためには採算を取るために料金を上げることが難しいと考えており、市の負担が発生してしまうことは致し方ないと考えている。

AI デマンド交通についても2台の運行で約3500万円の支出に対して運賃収入は約300万円と見込んでおり、市の負担が多く発生する。

こちらについても高齢者等の外出支援のために、料金を高く設定せず、お示しした計画で進めたいと考えている。

【総務部長 山本会長】

今回の協議については羽咋市地域公共交通再編実施計画の案をもって AI デマンド交通のプロポーザル等を実施したいということか。

【事務局】

路線バスの利用助成や交通空白地へのタクシー助成については要綱の案を作成し、次回の協議会で諮りたいと考えている。

令和6年度からコミュニティバスの再編や AI デマンド交通を導入するためには、今年度中に車両の購入等、準備を進める必要がある。現状、半導体不足等により納車が遅れていることもあり、今回の羽咋市地域公共交通再編実施計画の案の承認を受けてコミュニティバスの車両購入や AI デマンド交通の導入に向けた準備を進めたいと考えている。

羽咋市地域公共交通再編実施計画については次回の協議会で路線バスの利用助成や交通空白地へのタクシー助成、バス待ち環境の向上への取組等の要綱をお諮りした上で計画の案を取りたいと考えている。

【総務部長 山本会長】

協議事項第2号、第3号について、助成制度については検討し必要があれば計画を修正することとし、この案のとおり承認することでご異議ないか。

【一同】

異議なし。

【総務部長 山本会長】

異議なしと認め、承認することとする。

6. その他

【小松大学 高山教授】

JR 七尾線の利用促進について、北陸新幹線が敦賀まで延伸する来年3月以降、JRが七尾線を離す可能性も出てくると思う。そうならないように七尾線の利用促進を沿線自治体で議論する場が必要だと思う。そのような場を県が音頭を取れば良いが、県は表だって口を出さないのが、沿線自治体が県を引っ張り出すようなことをしてほしい。現状は危機的状態ではないと思うが、危機的状態になる前に議論を進める場をぜひ作ってほしいと思うが県はどう感じているか。

【石川県交通政策課 石黒主幹】

個人的には、JR 七尾線が危機的状況になる前に議論の場を設けることは必要と感じている。いただいた意見を上官にも報告したい。

【総務部長 山本会長】

羽咋市としても JR 七尾線を使っていただく機会を増やしたいと考えており、交流拠点施設を羽咋駅前に建設している。また、羽咋駅東にある駐車場について、料金の無料化を検討している。

路線バスについても大事な交通機関であり、今後も存続できるように様々な形で検討していきたい。

【西日本旅客鉄道（株） 江下七尾鉄道部長】

北陸では新幹線を契機として鉄道の交通機関が大きく変わることが想定されている。七尾線も今後どうなっていくか不安な部分がある。七尾線がなくなれば石川県の交通行政は上手くいかなくなり、能登と加賀の地域格差が広がっていくと考えている。石川県の力を借りながら交通行政を発展させていきたいと考えているので七尾線への協力もお願いしたい。

7. 閉会

以上